

「中世の通航税賦課をめぐる ―納入忌避・回避の算段―」

綿貫 友子

要旨

今日でも税に関わる話題には事欠かない。「納入する」「負担する」ものでありながら、「徴収される」「負担させられる」ものという意識が強いなかでは、いかにその負担を軽く済ませられるのか、あわよくば回避出来はしないかと策を弄する輩も少なくない。租税回避・忌避の動向は徴税と連動して古代以来みられる。報告では中世の通航税である関銭や津料の賦課をめぐる、税の減免・回避の算段としてどのような状況がみられたのかについて紹介したい。